

鎮魂

沖縄戦 ひめゆり学徒隊へ

ひめゆり学徒隊散華の跡
荒崎海岸

沖縄師範学校女子部教師 西平英夫と

ひめゆり学徒隊生存者の手記より

～朗読と音楽で戦争の実相と平和の大切さを届けます～

2026年4月12日(日) 18:00～19:30 (開場17:30)

田無公民館 3階集会室 (旧視聴覚室) 無料

(申込不要：定員40名に達した場合は別室にて中継をご覧いただきます)

出演 三線 吉井宏子 (島うむい・唄あすいび会主宰)
ピアノ 村上明子 (Natural Piano Studio 主宰)
朗読 常田青児 (俳優)
青木芳枝 (朗読プロジェクト花かご主宰)
西東京平和の祈りと響きの会会員

主催：西東京平和の祈りと響きの会 : 問い合わせ heiwanoitoritohibiki@gmail.com

後援：西東京市・西東京市教育委員会・西東京市文化芸術振興会・西東京稲門会ワセ女会

「ひめゆり」の由来

沖縄師範学校女子部の広報誌が「白百合（しらゆり）」

沖縄県立第一高等女学校の広報誌が「乙姫（おとひめ）」

この2つの名前を合わせて「ひめゆり」と名付けられました



1942年 十七里行軍にて先生と生徒たち

—— 首里城の丘かすむこなた 松風清き大道に

そいていらかの棟たかし これぞ吾等が学びの舎 ——

そのいらかの下で、沖縄師範学校生280名、沖縄県立第一高等女学校生800名、計1000名に余る可憐な少女が、毎日平和な、そして誇りに満ちた気持ちで、快活に校歌を口ずさみながら勉学していた・・・

沖縄戦におけるひめゆり学徒隊の軌跡

1945年（昭和20年）3月23日 米軍による沖縄本島への攻撃が始まる

沖縄師範学校女子部と、沖縄県立第一高等女学校の生徒222人と教師18人が、南風原沖縄陸軍病院に動員されました。

4月1日 米軍が沖縄本島に上陸

米軍は、日本軍の戦線を次々と打ち破り、5月下旬には、日本軍司令部のある首里へと迫ってきました。日本軍は、米軍の本土進行を少しでも遅らせるため、本島南部へ撤退し、戦いを継続する方針を探ります。

5月25日 陸軍病院に南部への撤退命令が発令

大砲と砲撃の中、教師も生徒もびしょ濡れになりながら、衛生材料を背負い、歩ける患者を連れ、傷ついた友人を担架に乗せ、泥だらけになった道を南部へと向かいました。教師の中には、ガス弾攻撃の影響で子供のようになって、爆撃の恐ろしさもわからなくなった生徒を連れて移動した者もありました。撤退後の南部は、別天地と思えるほどの静けさでしたが、数日後には米軍の攻撃が始まりました。南部に来てからは、もはや病院活動ができる状況ではなく、教師も生徒も自活するために、食料集めや水汲みをするのが日々の仕事となりました。

6月18日 学徒隊に解散命令が発令

引率教師たちは、そのことを生徒たちに伝え、すぐに準備をして壕を出るように指示しました。壕を出た後、どこへ行けばいいのか、どう行動すればいいのか、教師たちにもわかりませんでした。一人でも多くの生徒に生き残ってほしいと言う思いと、捕虜になってはならないと言う矛盾した思いを抱え、生徒たちに明確な指示を出すことができなかつたのです。壕の外には、米軍による猛爆撃が待ち受けていました。死傷者を出しながら、多くの者が、その先の海岸へと追い詰められていきました。

引率教師として動員された18名の教師のうち13名、生徒は、222名のうち123名が命を落としました。

出典：「ひめゆり学徒隊の引率教師たち」